

会議の要旨（議事録）

会議の名称	平成29年度 第1回鳥栖市国民健康保険運営協議会		
開催日時	平成29年8月17日（木） 午後1時30分～	開催場所	鳥栖市役所 2階第2会議室
出席者数	委員 15人 オブザーバー 1人 (欠席委員1人の代理として出席) 事務局 3人	傍聴人数	0人
議題	(1) 平成28年度鳥栖市国民健康保険の状況について (2) 平成28年度鳥栖市国民健康保険特別会計決算について (3) 平成28年度医療費の適正化事業について (4) 国保制度改革について (5) 累積赤字について		
配布資料	平成29年度 第1回鳥栖市国民健康保険運営協議会資料 (事前配布・一部当日配布)		
所管課	(課名) 国保年金課 (電話番号) 85-3582		

平成29年度 第1回鳥栖市国民健康保険運営協議会 議事録

- 会長 議題の(1)平成28年度鳥栖市国民健康保険の状況について、事務局より説明をお願いします。
- 事務局 (1)平成28年度鳥栖市国民健康保険の状況について説明
- 会長 ただいま、事務局より説明がございました。
どなたか、ご意見、ご質問はございませんでしょうか。
- 保険医代表委員 平成28年度のグラフの中で、後期離脱1名となっているが、これはどういう状況か教えてください。
- 事務局 後期高齢者には、基本的には75歳からの加入となりますが、ある一定の障害があれば65歳からでも加入できることになっております。
一定の障害がある方が65歳になって一度後期に加入されましたが、諸事情があって、国保に戻ってこられた方が1名いらっしゃいましたので、その分が「後期離脱」ということになっております。
- 会長 ご意見、ご質問は、無いようですので、議題の(2)平成28年度鳥栖市国民健康保険特別会計の決算について、事務局より説明をお願いします。
- 事務局 (2)平成28年度鳥栖市国民健康保険特別会計決算について説明
- 会長 ただいま、事務局より説明がございました。
どなたか、ご意見、ご質問はございませんでしょうか。
- 保険医代表委員 資料4ページの歳入から歳出を引いたものが収支ということで良いですか。
- 事務局 公会計は単年度会計になっていますので、例えば、前年度28年度のマイナス分については、29年度の予算を組んで、前年度に繰上げするという手続きをするので、収支額は累積赤字として残っているという状況になっております。
- 保険医代表委員 通常は、年内に入ったお金と出たお金をここに収支として出します。
今までの累積赤字は別に出すと思いますが、これは分かりにくい。
- 事務局 28年度も27年度に前年度繰上げ充用として11億8,400万円しており、その分がどうしても歳出に上がってしまうので、収支が累積赤字となり、収支額から前年度充用に充てた分を引いた分が単年度収支ということになります。

保険医代表委員 資料5ページで、いったん特別繰入金というのに1億円入れて、それを今度はまるまる引いて、基金繰入金にまわされています。

保険医代表委員 合計がどんどん違ってくるのではないですか。

事務局 特別繰入金とは、一般会計から赤字解消のために法定外で特別会計に繰り入れたものですが、資料の6ページにあるように、一般会計からの繰入金として1億円もらって、それを基金積立金に一旦積んで、前年度繰上充用をするときに基金から繰入れるので、予算上2億円になっておりますが、実際に一般会計からもらったお金は1億円です。

手続きとして、どうしても財源として充てる必要があり、一般会計からの繰入金1億円は当初予算でもらっていたが、前年度繰上げ充用は、5月末までにするので、その時の財源として1億円をいったん基金に積み立てて繰上充用するときの財源として引き出して充てるという手続きをとることになりまして、今後もこのような手続きをとることになっていくと思います。

保険医代表委員 資料6ページの歳出増となっている1番と11番について説明してください。

事務局 1番は総務費として、職員の人件費とシステム改修費などの費用となっております。

人件費の増加は職員の年齢構成に起因しておりまして、平成27年度より平成28年度の方が職員の平均年齢が上がったための増となったことと、都道府県化に向けてのシステム改修を行ったことによるものです。

11番の諸支出金につきましては、平成27年度に国や支払基金からもらったお金を精算して返すという手続きがありますが、その分の返還金額が増えたため4,200万円の増となっております。

保険医代表委員 返還金が増額となった原因は何ですか。

事務局 概算で国や支払基金が想定した額よりも、実際の保険給付費として支出した額が少なかったため、返還金の増額となりました。

被保険者代表委員 人件費が上がったという話ですが、せつかく2の保険給付費が1億3,800万円のマイナスになっているのに経費が増しているということではないですか。

事務局 1款の総務費の費用については、一般会計より事務費繰入金として国保会計に入ってきます。5ページに繰入金の内容を載せているが、ここが増えても赤字に影響はありません。7,900万円の歳出歳入が7,400万円となっているが、補助金等を差し引いた分についてはすべて一般会計からの繰り入れとなっているので、赤字との連動性はありません。

保険医代表委員 入ってきたお金と実際に使ったお金を表してもらった方が、実際の国保の赤字が分かりやすいと思います。
会計上の繰入金を表を出す以外に県や国から入ってきたお金がいくらで医療費として使ったお金がこれだけだというような入ってきたお金と出ていったお金の差が分かるような資料があった方が良いでしょう。

事務局 次回になると思いますが、事務費は事務費で、保険給付費は保険給付費としてかかった分について、そこにどうお金が充てられたかについてグラフ等でお示ししたいと思います。

保険医代表委員 単年度収支が赤字になった年と黒字になった年があるので、黒字になった年のやり方を毎年行っていけば、少しずつでも赤字は解消していくのではないのでしょうか。

事務局 平成 19 年度に 10 億 3,900 万円の赤字がありましたが、平成 20 年度から後期高齢者医療費制度が始まり、国保の被保険者の構成が大きく変わり、会計上も後期の分については概算での支出だったり、交付を受けたりして、これを 2 年後に精算するというやり方になりました。

平成 20 年度は 1 億 2,500 万円の黒字ですが、平成 21 年度は医療費が上がったりしたため黒字幅が下がり、平成 22 年度は 2 年前の精算の支出がこの年から発生し、赤字が続きました。

そういったことから、平成 24 年度に税率改定をしたことで、歳入が増加し、1 億 2,400 万円の黒字に転じました。平成 25 年度は保険給付費の増により黒字幅が下がり、平成 26 年度は後期高齢者支援金や歳入の前期高齢者交付金も 2 年後に精算することとなっておりますが、資料 5 ページの歳入の 6 の前期高齢者交付金の額 17 億円の精算額が多いときには 2 億円以上もらいすぎていたりしました。平成 26 年度の 2 億 1 千万円の赤字のうち 1 億 7 千万はこの前期高齢者交付金の 2 年前の分の精算額です。

平成 27 年度は広域化も進められ、550 億円ほど公費が増え、本来であれば黒字になる予定でしたが、肝炎新薬が急きょ出たため、6 千万円の赤字となっています。

平成 28 年度については、2 年前の平成 26 年度の前期高齢者交付金の返還金がかかなり少なくなり、1 億 3 千万円の黒字となっておりますが、このうち 1 億円は一般会計からの繰入金です。

このように毎年同じようなことをやっても、2 年前の精算額が大きく影響しており、国保の制度上何か特別なことをした、していないというわけではありません。

被保険者代表委員 累積赤字の推移についてだが、10 年前から何も変わっていない。佐賀新聞の資料にもあるように平成 29 年度までに赤字解消困難なのは 2 市とありますが。

事務局 赤字解消については、議題 5 で、後程説明させていただきたいと思います。

公益代表委員 4ページの累積赤字額の10億は、そもそも何なのですか。医療費の使い過ぎということですか。

事務局 本来、国民健康保険の制度といたしましては、保険給付費を支払うために半分を保険税で、もう半分を公費で支払うというのが制度の原則であります。保険給付費を支払う分の財源不足の状態が続いたということで、本来であれば保険税率を上げる等の対応をすべきところですが、市の色々なその当時の状況もあり、税率をあげられなかったということだと認識しております。

保険医代表委員 10年間で1,400万円しか増えていないので、この10年間何もしてこなかった訳ではなく、実はかなり努力をしていたということではないでしょうか。

公益代表委員 平成19年度以前の10年間は、何をしていたのですか。

事務局 平成15年くらいであれば、平成の大合併で鳥栖市も合併協議会が立ち上がっており、合併となれば、国保税率を揃えなければならないなどがあり、単独で税率を上げることは、困難だった時期だったのではないかと思います。

被保険者代表委員 このままでいけば、単年度はプラスマイナス0、とんとんで推移していくということですか。

事務局 次の議題でもありますが、平成30年度の広域化後は、理論上赤字は出ないことになっています。本来は赤字0からのスタートとなりますが、鳥栖市はそれまでに赤字解消をすることは難しいので、30年度以降赤字が出なければ、これまでの赤字については一般会計からの1億円の繰入をし、10年をめどに解消していく予定となっております。広域化後も赤字が出るということであれば、税率を上げたり、一般会計から繰り入れたりなど選択肢はいくつかあると考えております。

会長 ご意見、ご質問は、無いようですので、議題の(3)平成28年度医療費適正化事業について、事務局より説明をお願いします。

事務局 (3)平成28年度医療費適正化事業について説明

会長 ただいま、事務局より説明がございました。
どなたか、ご意見、ご質問はございませんでしょうか。

被保険者代表委員 特定受診率の全国平均は、どれくらいですか。

事務局 全国平均は、40%は超えておりますし、佐賀県内でも低い方からが早い順位となっております。

保険医代表委員 1.9%増えているように見えますが、対象者が減っているのので、受診率が上がったようになっていると思います。

会長 ご意見、ご質問は、無いようですので、次に、(4) 国保制度改革について、事務局より説明をお願いします。

事務局 (4) 国保制度改革について説明

会長 ただいま、事務局より説明がございました。
どなたか、ご意見、ご質問はございませんでしょうか。

保険医代表委員 県に統一されることによって削られる経費はどのような業務がありますか。レセプトチェックなどですか。

事務局 その部分についても、まだ県全体ですとは決まってはいません。県全体でした方が効率的なので、市町からはお願いしていますが、各市町の対応が、単価が安いから A 社と契約している、精度がいいから単価は高いけど B 社と契約しているなど、各市町バラバラの対応となっていますので、まだどうなるかわかりません。

保険医代表委員 メリットはあまりないということですか。

事務局 資格管理、保険給付費の支払い、賦課徴収、保健事業と事務的には今まで通り変わりませんが、今までは徴収した国保税と国からもらった公費を合わせて保険給付費を支払っておりましたので、保険給付費が何らかの事情で高騰すれば払えなくて赤字になっていました。

広域化後は、この保険給付費の支払いは県がしますもので、市は国保税と国からもらった公費を含めて事業納付費として毎年定額を県に支払うだけでよくなり、赤字の心配をしなくてよくなります。

被保険者代表委員 平成 30 年度からは、保険者は佐賀県になるのですか。

事務局 いいえ、佐賀県が保険者に加わることになります。

被保険者代表委員 最終的に責任を負うのはどこですか。

事務局 赤字が出たら、赤字を出した鳥栖市の責任となります。

保険医代表委員 整骨院が増えているが療養費などが増えていないでしょうか。

事務局 増加傾向にあるとは思いますが、急激に増えているわけではありません。

会長 ご意見、ご質問は、無いようですので、次に、(5) 累積赤字について、事務局より説明をお願いします。

事務局 (5) 累積赤字について説明

会長 ただいま、事務局より説明がございました。
どなたか、ご意見、ご質問はございませんでしょうか。

保険医代表委員 佐賀新聞に各市町の累積赤字額が掲載されているが、他の市町はいつたいどうやってこの赤字額を解消するのか。

事務局 平成 29 年度末の赤字額の半分を県の基金から借入れて、もう半分を一般会計から繰入れるなどして解消されるようです。
県の基金を借りて解消するところもあれば、独自に積み立てた基金で解消するところもあるようです。
鳥栖市も平成 27 年度に県の基金借入れを検討しましたが、当時は肝炎新薬の影響で医療費が増加し、平成 29 年度末現在の累積赤字額は 14 億円を見込んでおりましたので、半分の 7 億円を自前で予算に組む必要があったため、県の基金借入れを見送ったという経過がございます。

公益代表委員 累積赤字解消計画についての 2 の③で一般会計からの繰入金を 1 億円に引き上げたとありますが、一方で、右側の累積赤字対応策の直接的の 2 で国保被保険者以外の方が負担することとなるため一般会計からの繰入金は好ましくないとあります。
国保の被保険者が 20%ほどなので、7 億円が多額の繰入だからいっぺんにはできないということですか。引きずるよりももう一回考えた方がいいのではないのでしょうか。

事務局 鳥栖市全体の財政の中でやっている中の国保会計なので、大型事業も控えており、そういうこともあって、なかなかいっぺんにというのは難しいと考えております。
いっぺんにすると 8 割の方に説明ができないし、何かの事業を削ってまわすということにしかありません。

公益代表委員 1 億円の繰入を 2 億円にして、早めに赤字解消することはできないのか。

事務局 それも検討しております。国保の立場といたしましては、できるだけ早く赤字解消できるようにとは考えています。
ただ、市全体の中での話になるので、現段階では 1 億円というのが妥当ではないかと思っています。

被保険者代表委員 累積赤字の話ばかりで、借りてきたものを返す話ばかりしているが、今後単年度赤字を出さないことが大切。どういう解決策の考えをもっているか聞きたい。

事務局

平成 30 年度以降の財政運営が現時点では不透明です。

国のガイドラインで示す標準保険税率に合わせることで、理論上は赤字が出ないようになっています。

鳥栖市の税率を標準保険税率に合わせれば理論上赤字は出ないこととなりますが、標準保険税率がとて高かった場合、被保険者の負担能力の問題もありますので、試算結果をみて、11 月に標準保険税率がどのくらいになるかということで、お話しさせていただき、財源なども含め、今後検討していきたいと考えております。

事務局

龍頭会長、議事進行ありがとうございました。長時間ご審議いただきありがとうございました。

それでは、これで本日の会議を閉会させていただきます。